

～～ 鰯釣り ～～

休みの日は天候さえ良ければ鰯(アジ)釣り三昧の生活をしております。三隅火力発電所のスズ漁港の波止が主な漁場です。つまり脂がのっていればブランド鰯の「どんちっち鰯」ということになります。年間の水揚げは波がありますが、10cmから25cmのもので1,500匹前後でしょうか。刺身が定番ですが、フライよし、なめろうよし、たたきよし、鰯バーグよし、一夜干しよしです。ちなみに私は料理を致しませんので、釣るのと食べるのが専門で、料理は母、妻、娘の担当となっております。

釣り好きな方、鰯にご興味のある方は、ぜひお声がけ下さいませ（^_^）



田原 智延

私のつぶやき



瀨崎 俊明

～～あの感動を再び～～

2019年9月アジア初のラグビーワールドカップが開催されたことは、まだまだ記憶の中にしっかり残っています。ラグビーは日本ではメジャーなスポーツではありませんが、私が初めてラグビーに興味を持ったのが、今から40年前東京の秩父宮ラグビー場で母校の試合を見たことが始まりです。楯円のボールをチーム一丸となってトライを目指し、ノーサイドとなればお互いを称えあうという場面を目の前で見てとても感動しました。「One for all all for one」という言葉はとても有名ですが、スポーツだけでなく仕事にも共通した言葉になるかと思います。2023年のラグビーワールドカップの開催地はフランスです。今度こそベスト8以上に勝ち進んでほしいものです。

7～9月の税務・お知らせ

- ・源泉所得税の特例納付 … 7/12 (月) まで
- ・社会保険の算定基礎届 … 7/12 (月) まで
- ・所得税の予定納税額納付 … 8/2 (月) まで

イラストの答え

- ①安野広明
- ②石川秀樹
- ③横田憲一
- ④田原智延
- ⑤瀨崎俊明
- ⑥中島大吾
- ⑦佐々木康恵
- ⑧原光
- ⑨室田直樹
- ⑩橋本一輝
- ⑪宅野洸希

お休みカレンダー

2021年 7月							2021年 8月							2021年 9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31					26	27	28	29	30		

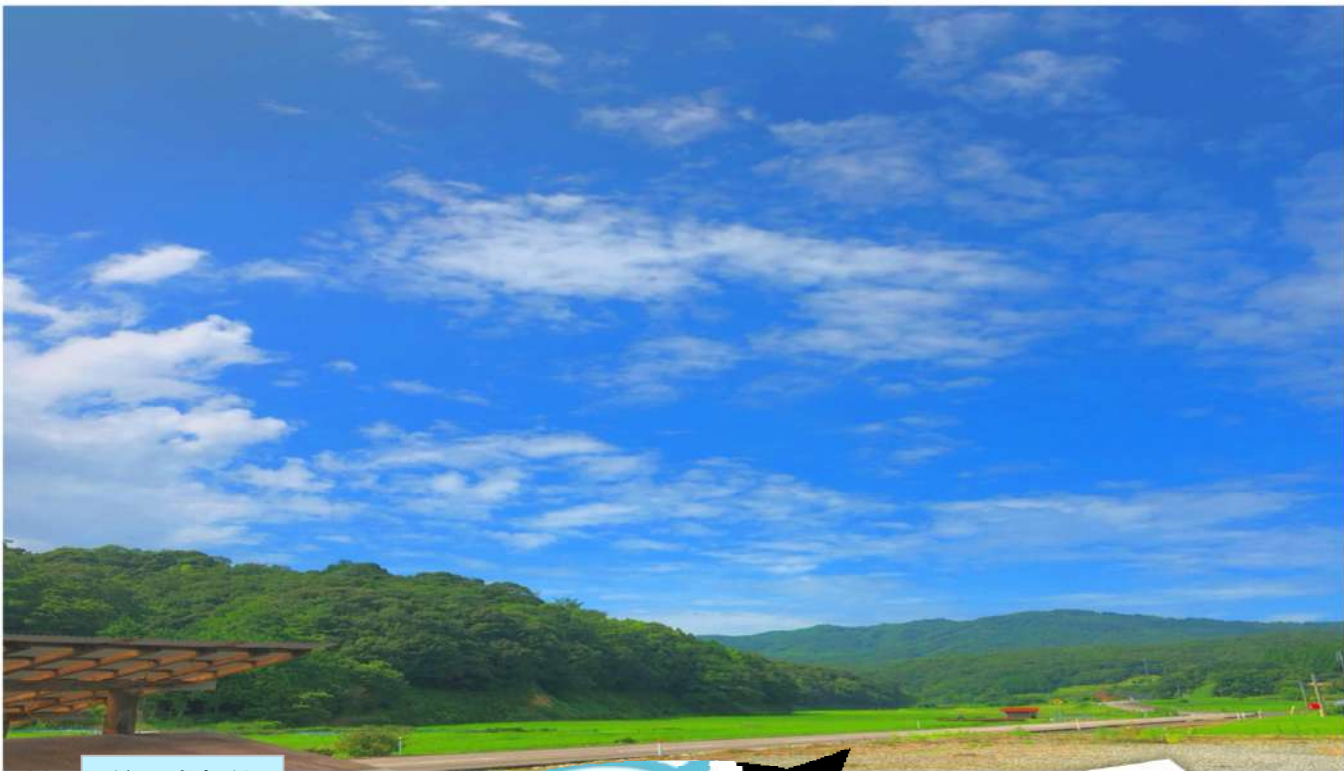
わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！

※ 過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol. 49
夏号

2021年7月



益田市郊外



雨にも負けず、風にも、暑さにも負けず、力を合わせて今を乗り越えましょう((´▽`))



事務所近辺



〒698-0041 鳥根県益田市高津一丁目1番1号
TEL (0856) 23-6116 FAX (0856) 23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikei.com>



ビジネスプラン / あんの会計

こんにちは、安野広明です。
いつもニュースレター「かけはし」をお受け取りいただき、ありがとうございます。



代表取締役
安野 広明

道端に咲く色とりどりのアジサイを眺めていると、一瞬ではあっても、ついさっきまでの悩みがスッと消えることがあります。自然には、人の心を浄化する力があるのかもしれませんが（→科学的にも証明されているようです）。
いまだに新型コロナが収束せず、ネガティブな感情に囚われがちな昨今ですが、意識的に自然を感じることで、心のバランスを図りたいものです。

さて話は変わりますが、弊社では現在、「2人担当制」を少しずつ導入しております。これまでは1社（または1事業者）のお客様に対して担当者1名で対応していました。タイミングを見ながらではありますが、今後は、2名で担当させていただく予定です（もちろん、お客様には事前にご相談差し上げます）。「2人担当制」にするのは、担当者2人で情報を共有しながらお客様をサポートすることによって、よりスピーディな対応が図れると同時に、例えば1人が不在の場合でも、もう1人の担当者に相談できる等、お客様に安心していただけるからです。弊社の属する会計業界では、担当者が職人と化し、完全に縦割り型の組織で、自分が（1人で）担当しているお客様以外のことはよく分からない・・・というのが常態化しています。そんな属人的な組織から脱却し、お客様により満足していただける会社となるために、取り組んで参る所存です。「2人担当制」については、昨年の弊社経営計画発表会でも公表しておりますが、この場を借りて改めてお伝えいたしますので、ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

いまの職場は天国か？それとも地獄か！？

「天国と地獄の長い箸」という有名な寓話があります。内容は以下の通りです。
「地獄の食堂も極楽の食堂も満員だった。向かい合って座っているテーブルの上には、おいしそうなお馳走がたくさん並んでいる。地獄の食堂も極楽の食堂も決まりがあった。それはたいへん長い箸で食事をしなければならないということだった。
地獄の食堂では、みんなが一生懸命に食べようとするのだが、あまりに箸が長いのでどうしても自分の口の中に食べものが入らない。食べたいのに食べられない。おまけに、長い箸の先が隣の人を突いてしまう。食堂のいたるところでケンカが起きていた。
極楽の食堂では、みんながおだやかな顔で食事を楽しんでいた。よく見ると、みんなが向かいの人の口へと食べものを運んでいた。こっち側に座っている人が向こう側に座っている人に食べさせてあげ、こっち側に座っている人は向かい側の人から食べさせてもらっていた。」

端的に言えば、地獄の食堂には「自分のことしか考えていない人間」が集まり、極楽の食堂には「自分だけでなく他人のことも考える人間」が集まっているということ。
地獄では争いが絶えず、殺伐とした雰囲気なのに対し、天国では、互いに与え合う関係の中で平和な空気が流れているのは、容易に想像がつくでしょう。天国の住人は、自分1人の力では食事ができない、つまり他人の力を借りなければ生きていけないことを分かっているからこそ、相手を尊重し、相手のことを考えられるのだと思います。

そしてこのことは、職場に置き換えても同じです。世の中には天国のような職場と地獄のような雰囲気（！）の職場とがあって、どちらに該当するのかは、その場にいる人たちが「自分のことしか考えていない人間」かどうかによるのでしょう。思うに、もし本当に自分1人の力で仕事できるのであれば、とくに個人事業主として独立しているはずですし、そうならないということは、やはり、自分ではできないことを他の誰かに補ってもらっていると言えます。
であるとすれば、後は、その事実をその人自身が理解し、受け入れ、（他人のことを考えて）行動するかどうか。突き詰めて考えると、最終的には、その人の人間性なのでしょうね。
ただ、実際には、職場にいる人の中でも、経営者の人間性が天国と地獄の分かれ目（！？）のような気がしますので、自分1人の力では本当に何もできない私は、人間性を磨き、周りの人のことを考えた行動ができるよう精進します。



事務所の裏によしずを設置しました。弊社の、夏の風物詩です。これで涼くなりましたが、気持ちは熱く頑張っています！



本の紹介



『チェンジ・ザ・ルール！』

なぜ、出せるはずの利益が出ないのか』
著者：エリヤフ・ゴールドラット

チェンジ・ザ・ルールは、在庫削減を目標に新しいシステムを導入した架空の会社を基にした、ストーリーです。何故本来出るべき利益が出ないのか、現在の会社の慣習やルール必要性や変えるべき箇所があるのではないかなどを提議しています。このコロナ禍で今までのルールが変わっていく中、是非読んでいただきたい本です。



室田 直樹

意味を与えられた場所に人は集まる



数年前に一世を風靡したスマホゲームに、「ポケモンGO」があります。子供だけでなく大人までがはまるようで、この田舎でも、大人がスマホ片手に集まって何をウロウロしているのかと思ったら、ポケモンをゲットしていた・・・なんて光景を何度か見かけました。リアルとバーチャルの融合という斬新性と、コレクション欲をくすぐるキャラクターの数々がヒット要因なのでしょうか。

そして聞いたところによると、「ポケストップ」なるものが世界中のあらゆる場所にあって、名所や有名な建物などはもちろんのこと、普段、気にしていなかったような場所にも（バーチャル上で）設置されているそうです。そこでは、ポケモンを捕まえるためのモンスターボールなど、様々な道具が手に入ります。だからおじさんたちが、変わった場所をウロウロしてたんですね（笑）。

まあ、ゲームの内容はさておき、私が興味深いと感じたのは、いままで全く気にしていなかった何の変哲もない場所に、「ポケストップ」が設置されたことによって、そこに人が集まり始めるという事実。つまり、その場所に意味を与えたことで、そこに価値を感じる人々が集まるようになるのです。「ポケモンGO」に関して言えば、大人までが引き寄せられるのだから、よほど「ポケストップ」が魅力的なのでしょう。

このように、少し抽象度を高めて捉えれば、実は、会社やお店にも同じことが言えます。その会社に人財が集まるかどうか、そのお店に客が集まるかどうかは、その場所に、どういった意味付けがなされているか？によって違ってくるはずです。

もしも、何の意味付けも無ければ、何の変哲もない場所を人々が見向きもしないのと同様に、「そんな会社（お店）あった？」程度にしか認識されないでしょう。

では、どのように意味付けするのかと言えば、ベースとなるのはやはり、「何のために存在するのか？」といった理念やビジョンだと思います。

それらが明確になっていて、社員まで浸透している会社ほど、あたかも「ポケストップ」のように、世間の人から認識されやすく、やがてそこに、人が集まってくるのです。

さらに、その会社（お店）が持つ独自の価値観や世界観を外に発信し続け、それらに共感する人が増えていけば、もはや「ポケストップ」どころか、「地域の共有財産」のようになっていくと考えています。おそらく、これから先の時代を生き残っていくのは、そういった会社（お店）なのでしょう。

そのためにも、しっかりと意味付けがなされていなければはじまりません。

ということで、まずは自社（自店）に意味付けをし、地域の「ポケストップ」を目指して参りましょう！

目の前の仕事を「やりたいこと」にするという発想



たまに、「やりたいことを仕事にしよう！」と耳にします。確かに、仕事は人生の大半の時間を占める訳ですので、やりたいことをそのまま実現できれば理想的でしょう。しかし実際のところ、それができている人はごくわずか。多くの人は、なかなか上手く行かないようです。なぜなら、「やりたいこと」とは、「現在の自分の知識の範囲内で興味関心のあること」に過ぎず、仕事として続けるためには、表側で見える以上に、裏側でやりたくないこと、面倒くさいことがたくさんあって、大抵は、そこで挫折してしまうからです。

「こんなはずじゃなかった・・・」みたいな。

それはまるで、「（自分がやりたいのは）ここだ！」と思って穴を掘り始めたら、ほどなく、分厚い岩盤にぶつかって手が止まるようなイメージでしょうか。そして、「いや、やっぱりここじゃなかった」と場所を変えて掘り始めても、またしばらくすると、岩盤にぶつかる。そんなことを繰り返しているうちに、いつの間にか自分の足元が中途半端な穴だらけになってしまいます。そのままでは、いつまで経っても地下にある金脈（＝天職）にはたどり着けません。

そこで大切だと思うのが、今、目の前にある仕事を「やりたいこと」にしていくという発想。これは、たまたま掘り始めた穴が岩盤にぶつかったとしても、長い時間軸の中で、根気強く、どこまでも深く掘り進めることで、金脈を見つけるイメージです。

かくいう私自身、以前は、経営者の仕事をやりたいなんて考えたこともありませんでしたが、結果的に逃げられない立場になり、覚悟を持って掘り進めてきたところ、経営の奥深さに魅力を感じ、今では、天職だと確信するに至りました。

哲学者のニーチェは、「お前の立つところを、深く掘り下げよ！その下に、泉がある！」と説いています。

「やりたいこと」を探し求めて浅い穴ばこの数を増やすよりも、今の仕事が「やりたいこと」になるまで、穴を深く掘り進めてみてはいかがでしょうか。きっとその先には、自分もまだ知らない、素晴らしい世界が待っているはずです。（私も引き続き、掘り進めます！）

人生と向き合う時間はありますか？



弊社で毎月開催している社内木鶏会が、6月1日で100回目に達しました。約8年半前にスタートした時には、正直、ここまで続くとは思っておらず、「思えば～遠くへ～来たもんだ～♪」という海援隊のメロディが、頭の中で流れます（古い！）。

この研修では、『月刊致知』という人間学を学ぶ雑誌を用いて感想発表や意見交換を行うのですが、根底にあるテーマが人間学だけに、毎回、自らの人生と向き合う、よい機会になっています。1回1時間なので、100回で100時間、営業時間に換算すると12.5日。事前に雑誌を読んだり感想を書く時間を含めると、その倍以上はかかっているでしょうから、約1ヶ月を、人生と向き合う時間に使ったことになります。

現代社会を生きていると、溢れんばかりの情報の中で、こういった時間はなかなか取れないもの。そのように考えると、改めて、貴重な時間ですし、自分1人ではなく、同じ記事について社内のメンバーと語り合えるところがよいと思います。また、自分とは異なる視点に、気付かされることも多いです。もしもそんな社内木鶏会の開催についてご興味のある方は、ぜひご連絡下さい。一応、100回分の実績はあるので、それなりにお伝えできるかと思います。よろしくお願いします！

<安野からのおすすめコーナー>

＊このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただけると幸いです！



ノンフィクション小説 『凍』（沢木耕太郎 著）

最強のクライマーとの呼び声も高い山野井泰史。世界的名声を得ながら、ストイックなほど厳しい登山を続けている彼が選んだのは、ヒマラヤの難峰ギャチュンカンだった。だが彼は、妻とともにその美しい氷壁に挑み始めたとき、二人を待ち受ける壮絶な闘いの結末を知るはずもなかった・・・。絶望的状况下、究極の選択。鮮かに浮かび上がる奇跡の登山行と人間の絆。『深夜特急』シリーズで有名な沢木耕太郎氏によるリアル感溢れる描写により、手に汗握ること間違いなしです。これがノンフィクションだということに驚愕しました。



小説 『君と会えたから・・・』（喜多川泰 著）

将来に対する漠とした不安を抱えながらも、自分のやるべきこともやりたいことも見つけられずに何もせず、無気力に過ごしていた平凡な高校生の僕のもとに、ある夏の日、美しい女の子がやってきた。そして、彼女から、その後の僕の人生を変える教えを聞くことになる。いつしか彼女に恋心を募らせていた彼の前に次第に明らかになっていく彼女の秘密とは・・・。以前、講師としてお招きしたこともある喜多川泰先生の作品は全て読んでいますが、私の中の、隠れた名作です。まずはこの作品から喜多川ワールドに触れてみるのもありかも？



ビジネス書 『スイッチオンの生き方』（村上和雄 著）

今年4月にお亡くなりになった遺伝子研究の大家・村上和雄氏が、50年の遺伝子研究の総決算として書き上げた本です。人には実に98%もの眠ったままの遺伝子が存在するといいます。では、その遺伝子たちを、目覚めさせることはできるのか？本書では、「スイッチ・オンの生き方」につながる心の持ち方や感動の持つ力、ギブ・アンド・ギブの生き方などを紹介。村上氏の長年にわたる研究活動から得た、活きたエッセンスの数々がコンパクトにまとめられています。本書を読んで、スイッチオンしましょう！



映画 『ペイ・フォワード』（ミミ・レダー 監督／2000年製作）

11歳の少年トレバーは、社会科の授業中、担任のシモネット先生から「もし君たちが世界を変えたいと思ったら、何をする?」と問い掛けられる。悩んだ末にトレバーはあるアイデアを思いつく。それは「ペイ・フォワード」。他人から受けた厚意をその人に返すのではなく、まわりにいる別の人へと贈っていく…という奇想天外なアイデアだった。やがて、少年の考えたユニークなアイデアが広がり、心に傷を負った大人たちの心を癒していく…。衝撃のラストには驚きましたが、大切なことに気付かせてくれる、心温まる作品です。